

オンラインによるまちづくりワークショップの試み —学内講義の取組成果とアンケート調査からみた実践時の留意点—

日本大学 正会員 ○田島洋輔, 日本大学 正会員 岡田智秀, 日本大学 正会員 落合正行
日本大学 正会員 押田佳子, 日本大学 正会員 依田光正

1. 研究目的 ; 近年, ワークショップ (以下; WS) 手法が広く浸透しており, 利害関係者間の合意形成が必要となるまちづくり分野においても積極的に取り入れられている. 日本大学理工学部まちづくり工学科では, こうした WS の意義や進行方法に加え, 地域課題の抽出や多様な意見の集約, 結論を導くための実践的プロセス等を学ぶ演習科目として「まちづくり WSI・II」を実施してきた. 一方, 2020年2月より新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う世界規模での外出自粛等の感染対策の実施を受け, 当該授業においてもオンラインによる授業を展開する必要があったが, そもそもまちづくり WS はこれまで対面での実施を前提としてきたことから, オンラインでの実践的取り組みに関する知見は極めて少ない¹⁾.

そこで本研究では, まちづくりの実践的な学びを得る授業設計や実践手法を導出するため, これまでのオンライン授業の実施成果を報告するとともに, その課題からみた実践時の留意点を明らかにする.

2. 授業全体計画 ; 当該授業は, 第一段階として「まちづくり WSI (2年必修)」では, 御茶ノ水 (東京都千代田区神田駿河台) 周辺を対象に WS の意義や進行に関わる知識と, 限られた時間内で多様な意見を集約し一定の結論を導くファシリテータに必要な技術の習得を目指す. さらに, 「まちづくり WSI (3年必修)」では, WSI で修得した知識や技術を実空間・実地域でまち歩きや聞き取り調査を実施する等の実践的プロセスの体験といった, 理論と実践の段階的な学びを提供する. なお, 本稿では, 前述した段階的取り組みの第一段階である「まちづくり WSI」に着目し, 授業概要や取組内容について論考する.

3. まちづくり WSI の授業概要

(1) 授業の課題内容 ; 当該授業では, WS の意義や進行方法の他, 多様な意見を抽出し1つの方向性を導くファシリテータに必要な技術の習得を目指し, 発展的に連なる3つの課題・テーマを設定した (表-1).

(2) 授業実施状況 ; 令和3 (2021) 年度の当該授業は, 104名の学生が受講し, 任意で6~7名程度の班 (全16班) を構成し, 課題ごとに班の人員構成や役割を入れ替えながら授業を展開した. 授業実施においては, 学生半数が登校 (対面受講), もう半数が在宅 (オンライン受講) による形式であり, 同一の班員がオンライン上で一堂に会するよう WS を実施した. なお, 課題回ごとにオンライン成果発表会を実施した.

(3) 当該授業での工夫点 ; 当該授業では, 誰でも容易に利用できる汎用性の高いオンラインツールを用いることを前提とした. 具体的には, クラウドコンピューティングにより意思疎通を図る「Zoom」, ブラウザ上で模造紙の役割を果たす「Google Jamboard」を併用した WS 演習を実施した. また, 外出自粛期間中における現地踏査では, 「Google Street View」等を用いたまち歩き (地域概要の確認) を行った.

4. 授業アンケート調査の結果 ; 本調査では, 当該授業終了後, 1か月以内に授業アンケートを実施し, 回答者数31名 (回答率: 29.8%) の有効回答を得た.

表-1 まちづくり WSI の課題・テーマと実施内容

No.	課題・テーマ	実施内容
1	オリエンテーション	・講義の趣旨と事例紹介, 課題1の解説を行う. ・オンラインツール (Zoom, Jamboard) のレクチャーを行う.
2	【課題1】	テーマ 1-1 駿河台校舎と船橋校舎のどちらが魅力的か ロールプレイ練習 をテーマに討議, ポスター制作, 結果発表を実施する.
3	(日大理工に関する2つの議論)	テーマ 1-2 日大理工建設5学科におけるまち科の特徴 をテーマに討議, ポスター制作, 結果発表を実施する.
4	【課題2】	・プレテーマ: 参加者が有する御茶ノ水地区のイメージを共有し, 次回の話し合いに向けて現地踏査を実施する.
5	御茶ノ水地区貢献 の提案	・課題1で整理した「まちづくり工学科の特徴」を活用した 御茶ノ水地域の活性化方策について議論する.
6	(大学の地域貢献)	・御茶ノ水地区の地域課題の抽出を行う ・課題解決の方法について議論し, 中間発表を行う.
7		・前回の検討成果や中間発表での議論を踏まえて, A1 サイズのポスター (1枚) を制作し, 最終発表を行う.
8	【課題3】	・行政はもとより, 地元企業, 遊休不動産, 地域資源の活用 を考慮した地域活性化策について議論する.
9	計画の提案 (行政や地域企業等 と一体となった地域 活性化計画の立案)	・これまで整理してきた, 地域課題や地域資源 (歴史資源 や人的資源等) の活用方策について議論を深める.
10- 12		・注目すべき地域課題や地域資源の活用策についてス トーリーを組立て, 中間発表および教員との議論を行う.
13		・前回までの検討成果や中間発表での議論を踏まえ, A1サイズのポスター (2枚) を制作する.
14		・最終成果物 (A1サイズのポスター2枚) をもとに, Zoom を用いたオンライン最終発表を行う.
15	授業の振り返り	個人レポートの作成・提出

【注意】 中間・最終発表会は Zoom を用いたオンライン発表会とした.

キーワード オンライン, まちづくり, ワークショップ, アンケート調査, 実践教育

連絡先 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学大学院理工学研究科まちづくり工学科 TEL03-3259-0548

(1)オンラインWSを体験した感想;図-1(Q.1)より、オンラインWSを体験しての率直な感想を確認したところ、「有効」または「非常に有効」と回答した学生が7割以上を占めた。具体的には、「これからの時代に有った授業であった」等、コロナ禍の時代に即した演習方法が評価された他、「オンラインツールを使いこなせるようになった」や「まちづくりの現場で使用されるWS技術を体験したことで、統率力や表現力の重要性が理解できた」等、パソコン技術に加え、WSで必要となる能力の高まりも確認された。

(2)オンラインWSにおけるZoomの活用性;図-1(Q.2)より、Zoomの活用性について「有効」または「非常に有効」と回答した学生が約5割と、Q.1の回答と比して非常に低い。その具体としては、「Zoomでも実施可能であるが対面と比較すると濃度が違う」等の対面式授業との比較結果を述べる学生や、「顔出ししない学生がいて相手の表情が確認できなかった」や「周囲の音を拾ってしまい話し合いがしにくかった」等のZoomの使用・設定上の課題が確認された。

(3)オンラインWSにおけるJamboardの活用性;図-1(Q.3)より、Jamboardの活用性について「有効」または「非常に有効」と回答した学生は約8割と非常に高いことがわかる。具体的には、「初めて使ったが、難しい操作がなくて非常に使いやすい」や「オンライン上で情報共有が可能で意見の集約作業も非常に進めやすい」など、オンラインツールの使いやすさ(容易な操作性)に加え、意見集約に係るJamboardの有用性が評価されており、対面式WSにおいてもこれらオンラインツールの活用可能性が伺えた。

(4)現地踏査でのオンラインツールの活用性;図-1(Q.4)より、現地踏査におけるGoogle Street View等の活用性について「有効」または「非常に有効」と回答した学生は約3割と非常に少なく、「どちらでもない」が67.7%と最も多い。具体的には、「感染リスクを気にせずまち歩きできる」等のコロナ禍でも現地情報が確認できる点が評価されたものの、「やはりまちの状況は歩いてみないとわからない」等のように、実際のまちに出向いてこそ確認できる状況要素(場の雰囲気や利用状況など)が非常に重要であり、これが有用性を低下させた原因であると推察される。

(5)最終発表会での発表・講評が自信につながるか;図-1(Q.5)より、「非常に自信を持てた」や「自信を

持てた」と回答した学生は約7割であった。さらに、図-1(Q.6)では、「積極的に活用すべき」や「機会があれば活用したい」と回答した学生は9割当以上であり、当該WS体験やその成果物を就職活動やインターンシップ等にポートフォリオとして積極的に活用していきたいという前向きな回答が多く確認され、非常に有意義な演習授業となったといえよう。

5. まとめ;本稿では、「まちづくりWS I(2年必修)」のオンライン授業の成果報告と事後アンケート調査を通じて、まちづくりWSで必要とされるファシリテータ能力や技術の向上に加え、Zoom使用上の課題やオンラインツールの対面WSでの活用可能性、オンライン現地踏査の限界性等の留意点を抽出した。

参考文献:1)大塚あゆみ・伊藤恵・大場みち子:オンラインによる課題発見-解決型ワークショップの試み,日本デザイン学会デザイン学研究,2021

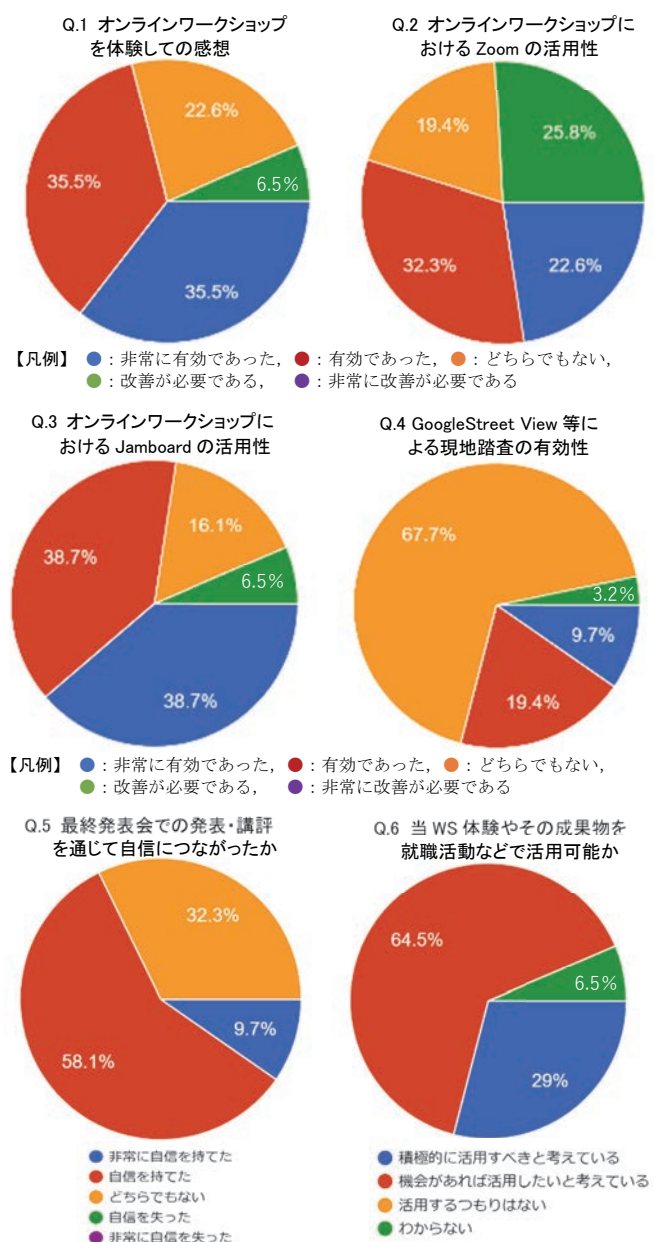


図-1 オンラインワークショップに関するアンケート調査結果